

カライ暦 Karaites calendar

カライ暦（またはカライ派暦）は、ユダヤ教のカライ派（カライム）が用いる宗教暦です。

カライ派は、ラビ・ユダヤ教とは異なり、タルムードなどの口伝律法を拒否し、ヘブライ聖書（＝ユダヤの聖典＝タナハ、ミクラ）のみを宗教生活の基盤としています。このため、カライ暦はラビ・ユダヤ教の暦といくつかの点で異なっています。

カライ暦の特徴

1. 新月の観測：カライ派は、毎月の新月を観測することで新しい月の始まりを決定します。

ラビ・ユダヤ教の固定された計算方法とは異なり、カライ派は物理的な新月の観測に基づいて月を決定します。これは、聖書の「この月があなたがたのために月の初めである」（出エジプト記 12 章 2 節）に基づくものです。

→出エジプト記 12：2 「この月をあなたたちの正月とし、年の初めの月としなさい。

→申命記 16：1 アビブの月を守り、あなたの神、主の過越祭を祝いなさい。アビブの月のある夜、あなたの神、主があなたをエジプトから導き出されたからである。

2. 閏月の挿入：カライ暦では、閏月（アダル・シェニー）を挿入する年も観測に基づきます。

主に、春分の時期に過ぎ越しの祭り（ペサハ）が来るように調整されます。これは、「あなたの神、主があなたに与えようとしておられる地の穀物を刈り入れるために、月のアビブを守りなさい」（申命記 16 章 1 節）に基づきます。ラビ・ユダヤ教は 19 年周期のメトン周期を基にした固定ルールで行います。

→申命記 16：1 アビブの月を守り、あなたの神、主の過越祭を祝いなさい。アビブの月のある夜、あなたの神、主があなたをエジプトから導き出されたからである。

3. 宗教行事の日時：カライ派の宗教行事や祝祭日の日時も新月の観測に基づいて決定されます。

これは、ラビ・ユダヤ教の固定されたカレンダーとは異なり、毎年変動する可能性があります（カライ派は観測に基づくため、毎年祝祭日の日時が異なる可能性があります）。

主な祝祭日には以下のものがあります：

- ・過ぎ越しの祭り（ペサハ）：ニサンの 14 日に開始されます。
- ・初穂の祭り（シャブオット、七週の祭り）：ペサハの翌日から数えて 50 日目に行われます。
- ・新年（ローシュ・ハシャナー）：ティシュリーの 1 日に始まります。
- ・贖罪の日（ヨム・キプル）：ティシュリーの 10 日に行われます。
- ・仮庵の祭り（スコット）：ティシュリーの 15 日から 22 日まで行われます。

カライ暦の月名

カライ暦の月名は、ラビ・ユダヤ教のヘブライ暦と同様です。

1. ニサン（アビブ）、2. イヤル（ジフ）、3. シワン、4. タムズ、5. アブ、6. エルル、7. ティシュリー、8. ヘシュバン（マルヘシュバン）、9. キスレブ、10. テベツ、11. シェパツ、12. アダル
- ・閏年にはアダル・シェニー（第二アダル）が挿入されます。

カライ派の信仰と実践

カライ派の信仰は、タナハの文字通りの解釈に基づいており、口伝律法（タルムード）を否定しています。このため、カライ派の宗教儀式や律法の解釈は、ラビ・ユダヤ教と異なる点が多々あります。特に、カライ暦の使用とそれに基づく祝祭日の実践は、カライ派の信仰の重要な部分を成しています。

まとめ

カライ暦は、カライ派のユダヤ教徒によって使用される暦であり、新月の観測と自然の現象に基づいて月の始まりや閏月の挿入を決定する点で、ラビ・ユダヤ教の固定されたヘブライ暦とは異なります。この暦の使用は、カライ派の聖書解釈と信仰の一部を反映しており、彼らの宗教生活の重要な要素となっています。

【参考】カライ派 Karaite Judaism

カライ派は、ユダヤ教の一派で、口伝律法を否定し、ヘブライ聖書（タナハ）だけを宗教的権威とすることを特徴としています。

「カライ」という名称はヘブライ語の「kara」（読む）に由来し、文字通り「聖書の読者」を意味します。

カライ派の歴史

カライ派は 8 世紀ごろにバビロニア（現在のイラク）で成立したとされています。アナン・ベン・ダビド Anan Ben David（715 年頃 - 795 年頃）という人物がカライ派の創始者とされ、彼はタルムードや口伝律法を否定し、聖書のみを宗教生活の基盤とすることを主張しました。彼の信奉者はアナン派と呼ばれ、現代のカライ派と同様に、ミシュナなどのラビのユダヤ教 口伝律法が権威あるものとは信じていませんでした。

中世において、カライ派は中東、北アフリカ、スペイン、ビザンティン帝国など広範な地域で影響力を持ちました。一時期、ユダヤ教内部での信徒数も増加し、ラビ派（ラビ・ユダヤ教）と競争するほどの勢力を誇りました。

しかし、時が経つにつれ、ラビ派の影響力が増し、カライ派の信徒数は減少しました。現在、カライ派のコミュニティはイスラエル、アメリカ、トルコ、リトアニアなどに存在しています。

カライ派の信仰と実践

カライ派は、ヘブライ聖書（タナハ）を唯一の宗教的権威と見なしています。ラビ派が重視するタルムードやその他の口伝律法は、カライ派においては受け入れられていません。

カライ派の信徒は、各自が聖書を直接読み、その解釈に基づいて信仰と実践を行います。これは、ラビの指導やタルムードの解釈に従うラビ派とは対照的です。

カライ派は、聖書に書かれている律法を文字通りに解釈し、実践します。たとえば、安息日に火を使わない、レビ記の食物規定を厳守するなど、聖書の指示に忠実に従います。

カライ派の特色

カライ派は、新月の観測に基づいて月の始まりを決定します。これにより、毎月の開始日や祝祭日の日時が変動します。ラビ派の固定された計算方法とは異なるため、カライ暦は動的です。

祈りと礼拝

カライ派の祈りと礼拝は、聖書の詩篇やその他の経典に基づいています。ラビ派の祈祷書（シドゥール）とは異なり、聖書の言葉を重視します。

教育とコミュニティ

カライ派の教育は、聖書の直接的な学習に重点を置いています。各信徒が聖書を理解し、生活に適用することが奨励されます。また、カライ派のコミュニティはしばしば緊密であり、互いに助け合うことが重要視されます。